

東日本大震災を忘れない

神戸女子大学・神戸女子短期大学は20年前に阪神・淡路大震災で、三宮キャンパスに大きな被害をうけ、下宿先で大学の学生2名の尊い生命が犠牲となりました。

東日本大震災で被害に遭われた多くの人々の心に寄り添い現地の一日も早い復興へ少しでも協力したいという思いは、震災直後から現在まで変わらず続き、教職員は様ざまな形で支援を続けてきました。「東日本大震災を忘れない」という思いが礎となった今年度の活動を紹介します。

健康福祉学部 社会福祉学科の教員と学生 ボランティアに参加

第1回 平成26年7月18日(金)～7月21日(月) 第2回 平成26年7月30日(水)～8月2日(土)

健康福祉学部 社会福祉学科の泉 妙子教授、木村 あい准教授と学生が、昨年度に引き続き岩手県陸前高田市と大槌町への関西3生協(注)が主催するボランティアバスツアーに参加しました。参加した学生は、ゼミ生、介護福祉コースで学ぶ2年生から4年生までの有志、合計22名です。第1回は、陸前高田市に学生6名教員1名、大槌町には学生9名教員1名と二手に分かれて「菜の花プロジェクト」の活動を行いました。第2回は陸前高田市の奇跡の一本松を訪れ、地域交流支援に2年生7名が参加しました。

東日本大震災から間もなく4年となりますが、復興がなかなか進まない状況のなかで、人々の癒えない気持ちを感じられました。

短い期間での活動ではありましたが、学生たちはボランティア団体の活動の方法や果たす役割の大きさを学び、防災を真剣に考え、将来専門職に就いた時に再度東北を訪れ人々と関わりたいと思いました。「小さな力も積み重なれば大きな力になる」と確信し、今後も自分たちができるボランティア活動を継続していきます。

(注) 関西3生協とは、おおさかバルコープ、よどがわ市民生協、ならコープ



菜の花を植えるために草を抜き、土から石を取り除きました



地域交流支援の様子

東日本大震災の教訓をテーマに研究

東日本大震災の復興支援のボランティアに熱心に取り組む家政学部家政学科の上野 勝代教授のゼミ生が、卒業論文、修士論文のテーマとして東日本大震災を取り上げました。

■「仮設住宅をよりよいものにするには」■

家政学部家政学科の生駒 美樹さんは、避難生活を少しでも快適な環境にするためには仮設住宅の構造をどのように改善すればよいか、現地に足を運び研究会に参加して勉強を続けました。

生駒さんは平成25年の夏に行われた本学の被災地への学びのバスツアーで現地を訪れ、平成26年には、岩手県宮古市で開催された日本住宅会議主催のサマーセミナー、大船渡市で開催されたNPO法人西山外三記念すまいまちづくり文庫のワークショップに参加し、陸前高田市の仮設住宅を訪問調査しました。仮設に住む人の立場になり、バリアフリーや被災地の気候を考えた構造にすることが重要であると論文にまとめました。

■「家庭科における防災教育を考える」■

大学院家政学研究科の生活造形学専攻 福濱 彩乃さんは、学部の4年生の時に上野ゼミの仲間と手づくりの裁縫箱を被災地に贈りました。また、学部生のときから3年連続被災地を訪れ、修士論文のテーマである家庭科教育に防災教育を効果的に生かす方法を研究するとともにボランティア活動も行ってきました。

緊急時には、学校の体育館などの多数の人員を収容できる場所が避難所になります。福濱さんは東日本大震災時に避難所となった宮城県の大川町立高屋小学校で当時の状況を運営者側と被災者側の立場から調査し、避難所をよりスムーズに運営する方法や日頃から防災意識を高める家庭科教育について研究しました。



上野勝代教授から岩手県の避難所の資料について説明を受ける福濱彩乃さん(中央)と生駒美樹さん

健康福祉学部 社会福祉学科 キャリアアップ研修事業の開催

神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科は、高齢者・障がい者・児童・生活困窮者などさまざまな生活課題をもつ人に福祉・介護分野での専門的な支援を担う社会福祉専門職を育てる教育・研究を行っています。

兵庫県の福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業の助成を受けて、介護・福祉分野で働く職員の方を対象にしたキャリアアップの研修会を平成26年9月27日(土)、シンポジウムを平成26年10月24日(金)にポートアイランドキャンパスで開催しました。

研修会とシンポジウムには、介護や福祉の現場で働く職員の方々が参加されました。

研修会は講義に加えワーキンググループ形式での研修が行われ、最新の研究の情報や政策動向が講義されました。参加された職員の方々の共通の悩みや課題についての情報交換も活発に行われ、その解決方法についても話し合われました。

シンポジウムは、外国の介護事情や、経済連携協定(EPA)によって始まった看護師・介護福祉士候補者の受け入れについて現状と課題が報告され、外国人介護福祉士が活躍でき、役立つ存在であるための提言が発表されました。

この研修事業には、社会福祉学科の多くの学生が参加し、熱心に聴講しました。



研修会の様子(左上) シンポジウムの様子(右下)

学科特別演習(ゼミ)紹介 にこにこクラブの活動

神戸女子短期大学幼児教育学科 塚田 みちる准教授のゼミでは、地域の子育て中のご家族のふれあいに「にこにこクラブ」を開催しています。「にこにこクラブ」は、就学前のお子さんとそのご家族を対象に、キャンパス内の保育実技室で月1回開催される「親子遊び」の場です。この活動を通して、幼稚園教諭・保育士を目指す学生は、親子との関わり方やより良い保育環境を考える研究を行っています。

学生たちは、毎回子どもたちが遊ぶ環境を考えて、保育実技室のレイアウトをします。0歳のお子さんでも安全に遊べるように絨毯を敷いたコーナーから、5歳のお子さんが体を動かして遊べるコーナーまで、年齢に応じたレイアウトを考えます。子どもたちが興味をもった遊びを見守り、子どもの関心が広がる様子と親子のふれあいを観察し、子どもの健全な心の成長や保護者の子育ての思いについて、自分たちは何を支援できるか考えています。地域の皆様にも喜ばれ、学生にとっては実践的に学べる場になっています。

*平成26年9月に、保育実技室が新しく生まれ変わりました。より保育に適した教室に改修され「にこにこクラブ」を実施しています。



にこにこクラブの様子



ボールプールで遊ぶ子どもたちを見守る学生



塚田みちる准教授(前列右から3人目)とゼミ生

2014 OSAKA手づくりフェア「デコリメイク&リメイクチャレンジ展」 神戸女子短期大学 総合生活学科の学生受賞



2014 OSAKA手づくりフェアで展示された作品



大阪市長賞を受賞した作品

服飾関連を教育・研究する関西の大学、短期大学、専門学校を対象にした学生のコンテスト「平成26年第5回デコリメイク&リメイク チャレンジ展(注)」(主催:大阪釘服飾手芸卸協同組合)において、神戸女子短期大学総合生活学科古田 貴美子講師のゼミ生2年生4名が製作した「ダンス用ドレス」が大阪市長賞を受賞しました。今回はこの作品展に103点の応募がありました。

古田ゼミの学生は、古くなって着用されなくなった黄色のギンガムチェックのウェディングドレスをダンス用の衣装にリメイクしました。光沢のある煌びやかな布地は、ステージなどで脚光を浴びるダンスにはぴったりで、ウェディングドレスに使用されていたオーガンジーを十分に利用し、ふわふわとしたかわいらしいドレス4着が出来上がりました。このコンテストに出品したのは3点で、その中の1点が大阪市長賞に輝きました。

受賞したドレスは、ウエストにアクセントがあり、スカート丈にこだわりました。後ろ身頃には大きな花のコサージュがつい

ており、人目を惹きます。他の2点の作品もフリルやタックを多く取り入れたデザインで、元のウェディングドレスの華やかさを生かしました。

9月5日(金)に、出展した大学、短大、専門学校によるファッションショーがマイドームおおさかで開催され、作品を着たアイドルダンスサークル「キャラメリィ」の学生8名がダンスを披露しました。この日のために古田ゼミの学生は、ロイヤルブルーのウェディングドレスをリメイクし4点の作品を追加しました。

リメイクした学生のうち2名は、ダンスサークルで活動しています。ファッションショーでは、リメイクされた衣装がより一層映えるように何日もかけて練習を行い、本番では、若さあふれるはつらつとしたダンスを披露しました。華やかなドレスで躍る学生に、観客の皆様からは、賞賛の言葉があちらこちらからあがりました。

学生たちはこの作品展に参加したことで得た知識や技術も生かして、卒業作品のウェディングドレス製作に精一杯取り組みました。



ファッションショーでダンスを披露する学生



ファッションショーの後、製作した学生と古田貴美子講師(後列左)と一緒に記念撮影



表彰状と記念品を持って長瀬荘一学長と記念撮影

(注) 既存の服飾品に、ビーズやワッペンなどの服飾資材を付けデコレーションしたもの(デコリメイク)と既存の服飾品に手を加え形や用途が変わったもの(リメイク)が出品され、毎年オリジナリティーあふれる意欲的なファッションが展示されている

食育を実践！食物栄養学科

神戸女子短期大学食物栄養学科は、「人間性豊かな食と栄養のクリエイション」をスローガンに「食」のスペシャリストを育成しています。即戦力となる栄養士になるために卒業必修科目、栄養士必修科目には、生活習慣病による病気や高齢化への対応、子どもの食育の実践、多様な食を取り巻く問題に対応するために調理実習や実験を多く取り入れています。

「栄養学実習Ⅱ」(担当: 今本 美幸准教授、中村 千里講師)の授業では、毎年「子どもの料理教室」を開き食育を実践しています。平成26年11月6日(木)に、近隣の神戸市立港島幼稚園の5歳児22名を対象とした子ども料理教室をポートアイランドキャンパスの調理実習室で開催しました。子ども自身が楽しく調理をして、栄養についても興味をもつように工夫する実習です。今回のテーマは「おいしい秋み～つけた！」とし、学生が秋の身近な食材を使って、和食の伝統も伝える献立を考えました。

学生たちは、子どもたちが安全に調理できる方法や子どもたちの自主性を尊重したサポート方法を学んで実践することで、食育の大切さや楽しさを追求する機会にもなりました。

献立: おいしい秋み～つけた!

さつまいもごはん

さんまのみそ煮

いんげんとしめじのごま和え

豆腐の清汁



実習の様子



試食の様子



総合生活学科 新カリキュラムによる授業の紹介

神戸女子短期大学総合生活学科では、平成25年度の学科再編により、学生は10の多彩な分野から自由に科目を選択できるようになりました。学生は自分の関心・興味のある分野で、専門的な知識と高い技術を身につけ、希望する資格やキャリアプランにつなぐことができます。「食」に関する資格の一つとしてフードコーディネーターが加わりました。

平成26年度には2年生を対象とし、前期は「フードコーディネーターの基礎」、後期は「フードコーディネーター実習」が開講され、「食」をよりおいしくプロデュースするために必要なテーブルコーディネート知識と技術を学びます。日本料理・西洋料理・中国料理に合ったテーブルコーディネートができるように、セッティングの約束ごと、食器・食具やテーブルクロス、ナプキンなどのコーディネートアイテムの知識と使い方を学習しています。

カラーコーディネート、テーブルマナーやサービスマナーも習得し、履修した学生は、フードコーディネーター3級の資格を得て、食空間の演出ができる分野で活躍することを目指しています。



「フードコーディネーター実習」(担当: 中尾美千代准教授)の授業の様子



手作りのお菓子でおもてなしのコーディネート実習



ナプキンの折り方の実習



クリスマスのテーブルコーディネートの実習